研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-141		17-327	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Gabapentin for the treatment of alcohol use disorder.
ガバペンチンによるアルコール使用障害の治療

執筆者

Mason BJ, Quello S, Shadan F.

掲載誌

Expert Opin Investig Drugs. 2018 Jan;27(1):113-124. doi: 10.1080/13543784.2018.1417383.

キーワード	PMID:
アルコール症 アルコール摂取障害; カルシウムチャネル/GABA モジュレーター; 渇望感	29241365

要　旨

アルコールの誤用は世界的に早死にと障害をきたす 5 番目の主要な危険因子である。誤用に悩まされるアメリカ人の 10%足らずしか、アルコール使用障害の薬物治療をで受けていない。Gabapentin は、痛みのために広く使われているカルシウムチャネル GABA 作動性修飾物質である。飲酒の減少や渇望感の減少を示している研究、断酒後数ヶ月の睡眠と情動のアルコール関連障害は、アルコール使用障害への治療の可能性を示唆する。

カバーされる領域：アルコール摂取障害へのガバペンチンを評価しているヒトを対象とする実験的研究と臨床研究をレビューした。データはピアレビューされた英語論文を PubMed により、特定された論文の参考文献リストの論文を捜すことによって得た。本試験は clinicaltrials.gov の上に登録した。さらに、アルコール摂取障害とアルコール離脱と非アルコール薬物濫用病のためのガバペンチンの研究に特有のガバペンチンの作用機序をレビューした。

専門家の意見：アルコール摂取障害は、チャレンジを要する規模の大きい医学必要に追いついていないを研究対象である。

一つの研究がアルコール摂取障害の新しい治療としてのガバペンチンの安全性および有効性の証拠を示し、利用できる治療の中でアルコール関連の不眠症や陰性情動のためのユニークな効果をもつ。独自のガバペンチン送達系は、アルコール使用障害の新しい治療として、重要な臨床試験とガバペンチンの登録を開く可能性がある。